

大戸地域防災事業

(1) 団体紹介

大戸町地域防災委員会とは・・・

大戸地域の住民が一丸となって、地域防災力の向上を図ることを目的に令和3年11月に設立した組織です。

～ 構成団体 ～

大戸町区長会

会津若松市消防団12分団

大戸地区民生児童委員協議会

会津若松市赤十字奉仕団大戸分団 等

(2) 背景

大戸地区では、多くの箇所が土砂災害警戒区域等に指定されており、令和元年発生 of 台風19号では、市内全域に避難勧告が出され、大戸公民館では自主避難の受け入れがなされました。



令和元年に実施された大戸地域のまちづくりワークショップでも、多くの住民が防災に高い関心を示し、「防災意識の高揚と防災体制の整備」が喫緊の課題として挙げられました。



(3) 目的

① 大戸地区の住民一人ひとりの災害に対する日頃の備えや、災害発生時の行動に備える「自助」の強化



② 当該地域においては、集落が点在し、高齢者等の要配慮も多いことから、集落や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」のさらなる推進。

⇒ 将来的には、おおと14地区全てに、「自主防災組織」を設立！！



(4) 内容

住民一人ひとりが平時からハザードマップ等を確認し自宅の災害リスクを認識するなど、災害発生時、自宅周囲にどのような危険が及ぶかを想定、その被害を可能な限り最小とするための対応を図ります。

具体的には

○ 大戸14地区ごとのワークショップを開催し、
地区それぞれの防災マップを作成するとともに、
「ふくしまマイ避難ノート」を活用し、
一人ひとりの適切な避難行動の確認を行います。



(5) 成果・効果

- 大戸地区全域の防災意識の向上
- 各家庭における避難シートの作成
- 大戸14地区それぞれの防災マップの作成、全戸への配布
- 大戸14地区それぞれの自主防災組織設立に向けたきっかけづくり



(6) 「目的達成」「課題解決」の手法（スケジュール）

5月2日 第1回防災委員会開催

- ・事業計画案・予算案・スケジュール

5月6日 協働パートナー選考審査会

5月下旬 第2回防災委員会開催

- ・各地区ワークショップの開催日、会場等
- ・防災マップの形状検討（壁貼り、冊子…）

6～7月 防災ワークショップ その1

災害や大戸地区のリスクを学び、「マイタイムライン」を各々にて作成

- ①大戸地区の課題、豪雨時の土砂災害における避難行動に特化

②設定した避難ルートに危険が潜んでいないかを
各自の目で探す宿題

8～9月 防災ワークショップ その2

各地区の住宅地図へ、各々が持ち寄ったリスク
情報を書き込む

①台風接近時に土のうを積む場所や側溝掃除箇所
などを地図上で共有

②避難施設・公共施設・消火栓なども地図に落とす

③避難所までのより安全な避難ルートを各地区で
検討

- 1 0 月 第 3 回防災委員会開催
大戸公民館にて各地区のハザードマップ発表
①発表前にマップの再検討タイムを設け、
加筆修正を加える。
②表題の決定

※発表地図を完成原稿とし、制作と印刷作業を進行

- 1 1 月 第 4 回防災委員会開催
成果物の配布と次年度に向けた事業計画検討

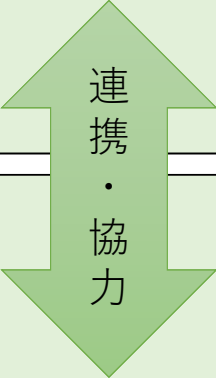
(7) 行政との役割分担

大戸町地域防災委員会

- 運営管理（主体）
- 会議やワークショップ等の開催
- ハザードマップの作成・配布
- 事業会計の管理、報告書作成 など

会津若松市（大戸公民館・危機管理課・企画調整課等）

- 運営管理（補助）
- 市役所内部の連絡調整等（大戸公民館）
- 危険個所の現地確認等（危機管理課）
- ワークショップ開催支援等（企画調整課）
- ホームページ、市政だより等における取組みを広報 など



連携
・
協力

(8) 最後に…

大戸はひとつ、されど、一つひとつ（14地区）。

区長会、消防団12分団、民生児童委員協議会、赤十字奉仕団大戸分団など、大戸町の住民自治を支える各種団体が一丸となって、地域住民をリードし、それぞれの地域の課題の解決に全力で取り組みます。

ご支援よろしく申し上げます。

